

平成28年度事業計画

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで
 特定非営利活動法人 日本翻訳者協会

1 事業実施の方針

日本翻訳者協会設立時の指針・使命を促進し、会員のための活動・事業を継続かつ、地域により偏っている活動を改善し、広範囲にわたり活動を広げ、本法人の公益性を増強する活動を積極的に取り入れる。また、800人強の会員に適切なサービスを提供するために、ウェブサイトの更新を2015年度に始めたが、2016年も継続する。

2 事業の実施に関する事項

事業名	事業内容	実施予定日時	実施予定場所	従事者の予定人数	受益対象者の範囲及び予定人数	事業費
分野別分科会	分野別分科会は前年度に引き続き、法律翻訳、製薬翻訳、通訳、翻訳ツール、特許翻訳分科会による研修会・ワークショップを開催する。昨年度あまり活発でなかった自主出版、エンターテインメント分科会の活動を支援、促進する。	各分科会とも年1～4回研修会・ワークショップを開催。6月にはIJET前に分科会を開催、合同でネットワーキングの機会を提供。	東京、関西、仙台 オンラインは全国・海外含む	各分科会の実行委員数は6名から8名。合計40名より多くのボランティアを募る予定。	会員および一般オンラインによるものは会員に限定。受益者は延べ約1000人	1722
地域別分科会	東京分科会、関西地区分科会、東北分科会は翻訳・通訳に関する種々のトピックに沿い、ワークショップ、研修会を実施。研修会の一部はウェブで公開。MAC（米国中西部活動委員会）を設立。本年度には3セッション開催予定。海外在住の会員（本協会の約40%）のために、海外における地域別分科会を設立、開催を奨励する。	東京分科会は6月と8月を除き、毎月定期的に開催。関西地区は年4回、東北分科会は仙台で開催されるIJETに係わっているが、年3回開催予定。米国中西部活動委員会は2回開催。英・米・豪各地において、開催を奨励。	国内においては東京、関西地区、仙台他。海外の活動はオハイオで実施予定。	各分科会実行委員は平均6名。合計約24名	会員及び一般。オンラインによるものは会員に限定。受益者は延べ約800人。	1899
翻訳コンテスト	翻訳者養成の目的で、新人翻訳者を対象に、会員、非会員を問わず、広く募集し、英日翻訳部門で5名、日英翻訳部門で5名を受賞者として選出。平成28年度にはPRを強化し、より多くの応募者募る予定。	平成28年10月～平成29年3月	全国・海外	審査員（英日翻訳審査員33名、日英翻訳審査員）も含め13名	実務翻訳経験33年未満の会員および一般	942

e-塾	実務翻訳者にオンラインで1,2ヶ月間の翻訳ワークショップを年2,3回提供。会員に対する有効な活動であり、分野別分科会にも拡大予定。	平成28年4月～平成29年3月	全国・海外	委員：6名 (製薬分科会の3名を含む)	会員に限定。2015年度には23名(JATPHARMMAの9名を含む)が受益したが、これを拡大したいと考えている。	0
エッセー 集作成・ 配布	「2016翻訳者の目線」を出版。会員、企業、教育機関に無料配布。 本年度より、原稿は寄稿者の責任とし、編集はしないことになる。	平成28年5月～平成28年11月 発行予定日は平成28年9月末日	東京。寄稿者は全国・海外	3名	会員、一般、教育機関	936
英日・日英 国際翻訳 会議 (IJET)	英日・日英翻訳者・通訳者のために情報、ワークショップ、研修会を開催。国際会議直前にはプレIJETイベントも開催。 2016年度のIJETは仙台で開催。2017年4月にオハイオ州で開催されるIJETの準備は本年中に開始。	平成28年4月～平成29年3月 第27回会議は6月18日・19日21日に開催。 第28回IJETは4月8日・9日(オハイオ州コロンブス)	仙台	IJET-27: 20 IJET-28: 15	会員および一般 IJET-27: 200人以上 IJET-28: 150人 (見込み)	7180
PROJECT	IJETが仙台で開催されるので、PROJECTは2016年度には開催されないが、2017年には開催予定。候補地を募集	平成29年4月以降	未定	10名	会員及び一般に公開。参加者は200名弱の予定。	0
メーリング リスト	メーリングリストは会員の情報・意見交換の場。 分野別のメーリングリストも会員のみ。本年度中にメーリングリストはフォーラムに移行予定。	通年	全国・海外	モデレーター：2名以上	会員のみ	0
ウェブサ イト(SNS も含む)管 理運営	イベント告知、報告など。トピック、分野グループのため、及び、情報公開のために各種SNSを活用。 ウェブ更新により、告知方法等は変更予定。	通年	全国・海外	20名	会員及び一般	2763 [内1800 開発費]
外部団体 との交流 協力	JTF(日本翻訳連盟)の翻訳祭の一部を担当。(1セッションで日英翻訳が中心)JSA(日本規格協会)からの協力要請で、ISO委員会に代表を派遣予定。 FIT(国際翻訳者連盟)の会員として協力支援。	通年 翻訳祭は11月	JTF翻訳祭は東京で開催。ISO等は会議によって場所は異なる。	10名強	不特定多数	360

JAT運営に関する報告及び計画：

- 平成26年度の通常総会で、JATの使命・目標を明確にし、長・中・短期計画を発表し、それに従い協会の運営をしている。平成27年6月の総会では、日本のNPO法改正に基づき、定款が見

直され、認証を受けたため、大々的な細則の見直しをし、3月にウェブ上で発表した。理事会は現状・課題・計画については随時話し合い、対処、改善していく。

- ウェブサイトをより使いやすいものとする必要性は数年前から話し合われていたが、平成27年夏に SolSpace と契約し、全面的な更新作業を開始した。今年度夏頃から更新後のサイトが利用可能になる予定であり、全面的なデザイン一新、及び新規機能追加により、わかりやすく、レスポンスの良いサイトとなり、利便性が向上する予定である。第一段階（メインサイト）の更新のために、41,310ドルの予算をとり、2016年6月現在で作業はほぼ完了している。第2段階（IJET、電子商取引）のための予算（約36,000ドル）は通常予算に繰り入れず、臨時支出として計上。
- JAT は理事も含め100%ボランティアによって運営されているが、理事の日常業務の仕事量の負担を緩和するため、一部を外注し、平成26年度の通常総会において定款が改訂され、理事の数を増やすことが決まったことにより、役割分担がしやすくなった。が、各理事の仕事量にはあまり変化がなかったため、本年度中に経理関係は会計事務所、又は税理士事務所に全面的に依頼し、日常業務を委託している人が理事の日常業務の一部行えるよう図る予定。
- JAT の認知度を高めるため、PR活動を強化するだけでなく、公益性を持ったプログラムを実行予定。

分野別分科会・地域別分科会の活動

- JATENT, JATINT, JATLAW, JATPHARMA, JATTIP, JATTOOLS, JATPATENT の7分科会があり、今後もある可能性がある。新しく提案される分科会が他の分科会と重複しないことを条件に推奨していく方針。
- JATENT 並びに JATTIP は平成27年度にはあまり活発な活動はしていなかったが、本年度は活動を奨励、支援していく方針。
- 地域別分科会は現在東京、関西地区、東北地区で行われているが、会員増加に伴い、地域を拡大し、会員の要望にできるだけ応えられるようにしていく。特に、日本国外の会員は地域別分科会の恩恵を一切受けていないことから、平成27年度にはオーストラリアで会合を持ち、平成28年度5月には、オハイオ州に MAC(米国中西部活動委員会)を設置。今後も国外の活動を積極的に奨励していく予定。
- 経費削減のため、低コストの研修会会場を選ぶ努力を平成26年度に開始し、参加費を課すことになった。結果、独立採算がとれた分科会もあり、赤字採算がかなり減った。しかし、全分科会の完全な独立採算は難しいのが現実である。

IJET・PROJECT

- IJET-25 に続き、IJET-26 も黒字であった。IJET の内容、広報の仕方、スポンサーの募り方など過去2回の成功要因を分析し、学び、会員・非会員の高い関心を継続できるよう今後も努力する。
- IJET が海外で開催される年には日本国内で PROJECT を都市圏で開催できるよう努力をする。今年度の IJET は仙台なので、PROJECT は開催されないが、IJET-28 は米国オハイオ州で開催予定なので、今年度中に平成29年の PROJECT の候補地を募りたいと考えている。

翻訳コンテスト・e-塾・アンソロジー

- 翻訳コンテストは若手翻訳者養成と考え、公益性を高める意味合いにおいては有益であるので、宣伝を強化し、応募者を増やすようにする。
- E 塾は確実に会員特典で、非常に有益な会員のための活動と考える。平成27年度にはセッションを一つ増やしたが、今年度も回数を増やす努力をする予定。
- 「2016 翻訳者の目線」は例年通り9月末に出版予定。エッセーを通し、翻訳者がクライアントに理解して欲しいことなどを述べる機会があり、翻訳者同士の情報交換の場としても有効であると考え。ただし、本年度からは、寄稿者の原稿を一切編集せず、ありのままに掲載することになった。ただし、寄稿者には印刷前のガリ刷りの校正をする機会がある。今まで通り、会員全員に一冊無料で送付、教育機関、翻訳会社などにも無料で送付予定